

佳作

## いつもありがとうお母さん

私は学校に忘れ物ばかりする。いつもちゃんとしたくをしようとつもりなのに忘れてしまう。

四年生になって先ず、筆箱を忘れた。筆箱を持ったと思つたのに、今度は、筆箱の中の消しゴムを忘れた。筆箱はカンベキだったのに、今度は算数で使うコンパスを忘れた。忘れたと言うより私はなくしてしまったのだ。

書道の時間に習字道具を忘れた。夏に入ると、プール道具は持ったけど、プールのほうしを忘れた。運動会でなりたかつた放送係になれたのに、セリフのファイルを忘れて頭の中が真っ白になった。山登りの遠足で水とうを忘れたこともある。給食ぶくろを忘れて、わりばしで食べることもしょっちゅうだ。

私の悪い所は、これだけじゃない。毎日毎日つくえの上をかたづけると言われている。消しゴムのカスは、山のようにつくえになつていて、まるでふじ山みたい。えん筆はけずったままカスを捨てないから、いつもえん筆けずりがいっぱい。ランドセルの中も、お道具箱の中も、いつもぐちゃぐちゃでおこられていて。とうぜんお母さんはおこつてばかりいる。いつも私が忘れ物をするたびに、朝かみの毛はぐちゃぐちゃで、ものすごいスピードで自転車に私にむかってくる。ガミガミ言わ

千葉県

我孫子市立並木小学校四年

上松 七海

れるのかと思うと、お母さんは、

「気をつけていってきなさい。しっかりしなさい。次、忘れ物をしたら、もうとどけないからね。」

と言うだけで、また妹と弟がまた家にすごいスピードで帰っていく。お母さんは、いつもいつも私の事を想ってくれている。忘れ物にすぐ気がついてくれるのも、私がやりっぱなしのもの、お母さんがいつも私を見ていてくれている。ただ、やつぱりもう忘れ物はしたくない。お母さんの朝はすごくいそがしい。お仕事もある。お家のこともやる。書道の先生だから、お母さんの手はいつもすみだらけだ。顔にまでついていっている時もある。妹と弟もいる。でも、私が帰るとお母さんはいつも、笑顔で「お帰りなさい、つかれたね。」

と言ってくれる。私をせめない。私になやみ事を相談しても、お母さんは、私の事をしんじているから、私の思うようにやればいいといつも言う。お母さんは、私の宝物だ。私は、お母さんみたいにになりたい。だからこれからは、忘れ物なんてしないようにする。ちゃんとかたづけもするようにする。だってお母さんは、私ができるとできるってしんじてくれているんだもん。